

YE DIGITAL

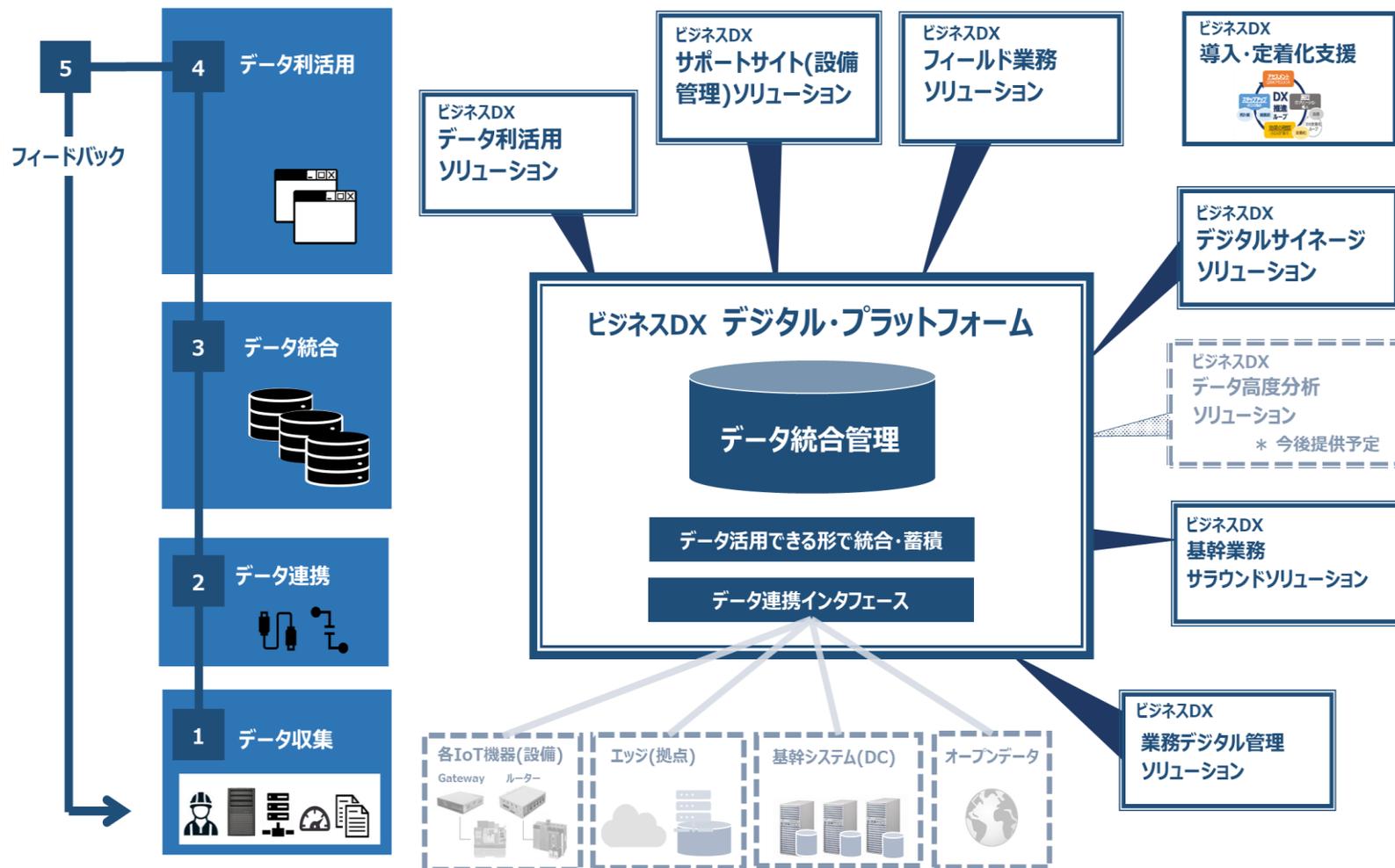
ビジネスDXソリューション

内容説明

ビジネスシステム本部

ビジネスDXソリューション

ビジネスDX デジタル・プラットフォームでデータを統合
お客様業務のシーンに合わせたデータ活用のソリューションを提供



ビジネスDXソリューション

ビジネスDXソリューションは、データ活用の業務モデルを
ベースとした機能を提供

フィールドサービスモデル

- ・ナレッジ管理(作業ナビゲート)
 - ・サービスカルテ
 - ・作業実績管理
 - ・マーカ―/マーカ―レス連携
- など

プロセスモニタ(設備管理)モデル

- ・マニュアル、FAQ管理
 - ・設備/機器の状態可視化(アラート通知)
 - ・データ管理(2次利用可能)
 - ・設備/機器へのリクエスト制御
- など

業務デジタル管理モデル

- ・入力作業デジタル管理
 - ・作業関連情報ナビ(作業支援/最適化)
 - ・業務システム連携
- など

データ利活用モデル

- ・ダッシュボード(対話型分析)
 - ・定型/統計レポート
 - ・アドホック(セルフ)分析ボード
- など

基幹業務サ라운드モデル

- ・業務システムのプラットフォーム上での開発
(基幹システムにはアドオンせず、Side by Sideで
業務アプリ、API、ワークフロー、バッチなど実装)
 - ・システムデータ連携
- など

データ分析モデル

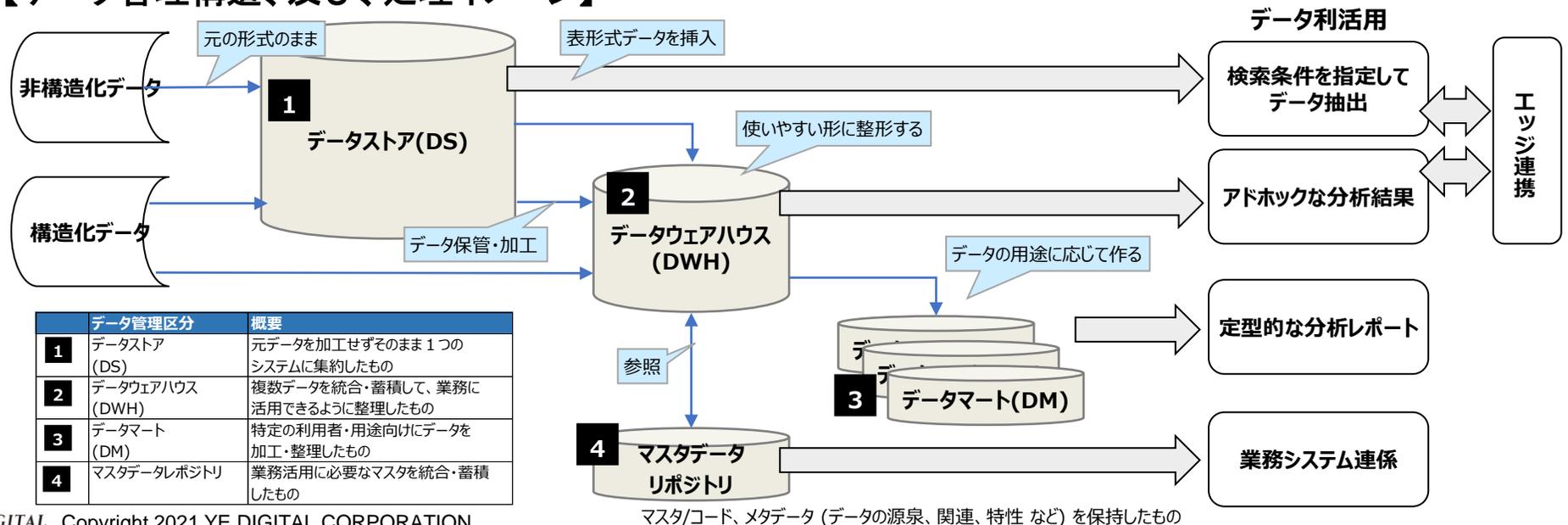
- ・オープンデータ連携/利活用
 - ・傾向分析/予測分析
 - ・ダッシュボード/API連携
- など

お客様データの統合管理 処理概要

データ統合管理では、それぞれのデータ特性により、『構造化データ』『非構造化データ』と非構造化データでありつつも用途が定まっている『半構造化データ』に分類し管理する。データ分類によりデータの処理方法を制御する。

区分	説明
構造化データ	「列」と「行」の概念をもつデータ。 効率よく管理するために用いられるRDB (リレーショナル・データベース) に格納されるデータ。
半構造化データ	データ内に規則性に関する区切りはあるものの、データの一部をみただけでは、二次元の表形式への変換可能性、変換方法がわからないデータ。
非構造化データ	データ単体で意味を持ち、それぞれ用途が異なるためデータベースでは扱うことが難しいデータ。 バイナリデータなど非定型のデータ。

【データ管理構造、及び、処理イメージ】

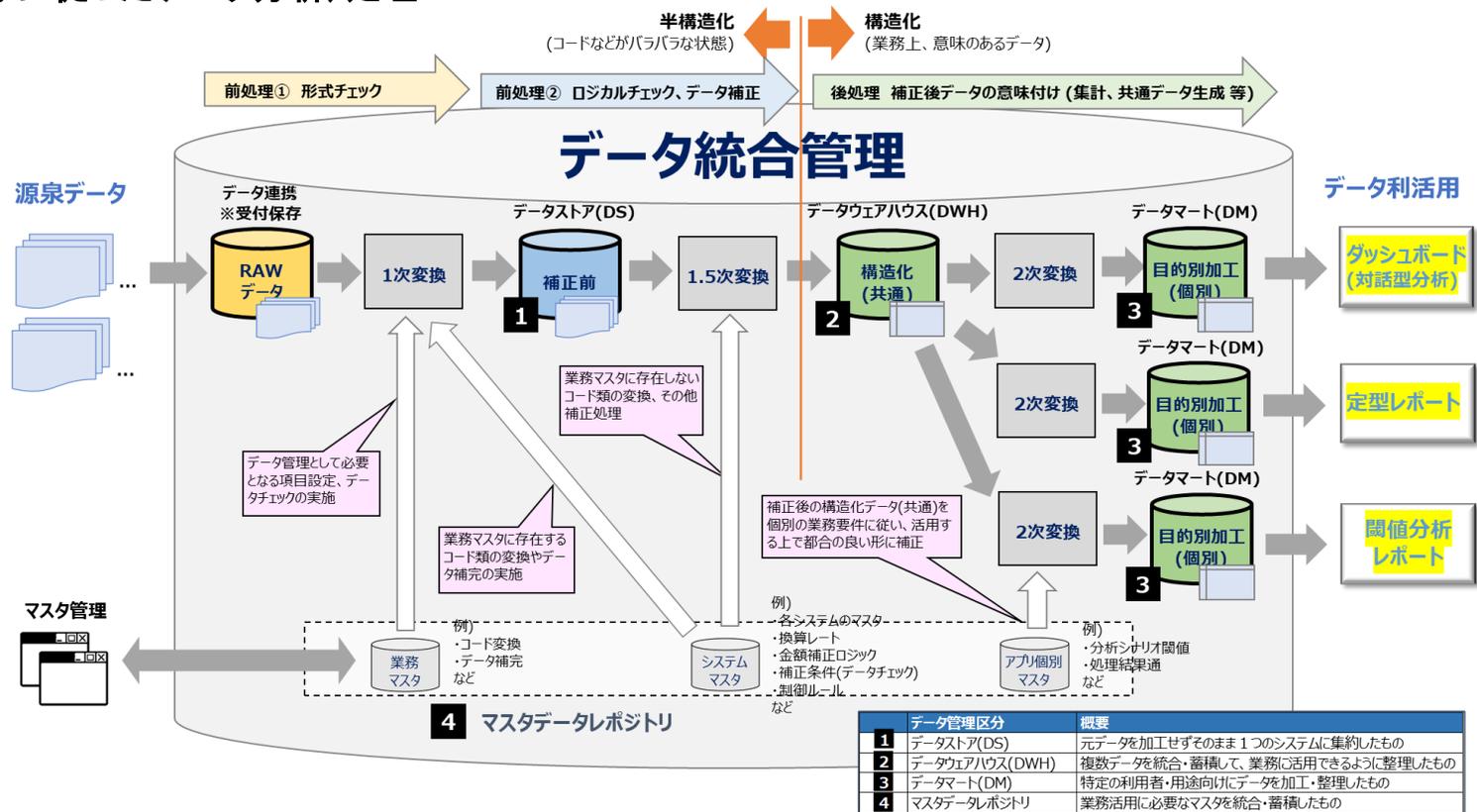


お客様データの統合管理 処理概要

Azure Synapse Analytics / Azure Databricksを利用したデータ分析処理イメージ

【主な実施処理】

- ▶ 業務として意味のある(活用できるデータ構造)への変換処理
- ▶ 換算処理やデータ補完処理
- ▶ データクオリティ管理(チェック処理含む)
 - 半構造化データを、コード変換、データ補完(タグ付け含む)、データチェック を行い活用できるデータに変換
- ▶ 閾値分析(シナリオに従ったデータ分析)処理



ビジネスDXソリューション構築方法

実業務(システム導入・運用)で培ったノウハウにより、お客様の目指す姿を理解し、最適なシステムを、最適な導入方法(導入フレーム)でご提案致します。

将来像を見据え、お客様と一体となった最適なプロジェクト推進



導入の流れ

現場ノウハウ・実績
YDC付加価値

システムデザインパターン
ベンダーテンプレート

クラウドサービス・アーキテクチャ
システムの信頼性・拡張性を確保

フレーム3

これまで製造業(アフターサービス含む)のプロジェクトで培った業務ノウハウ、システム導入/運用実績より、機能(アプリケーション)・サービスを提供

フレーム2

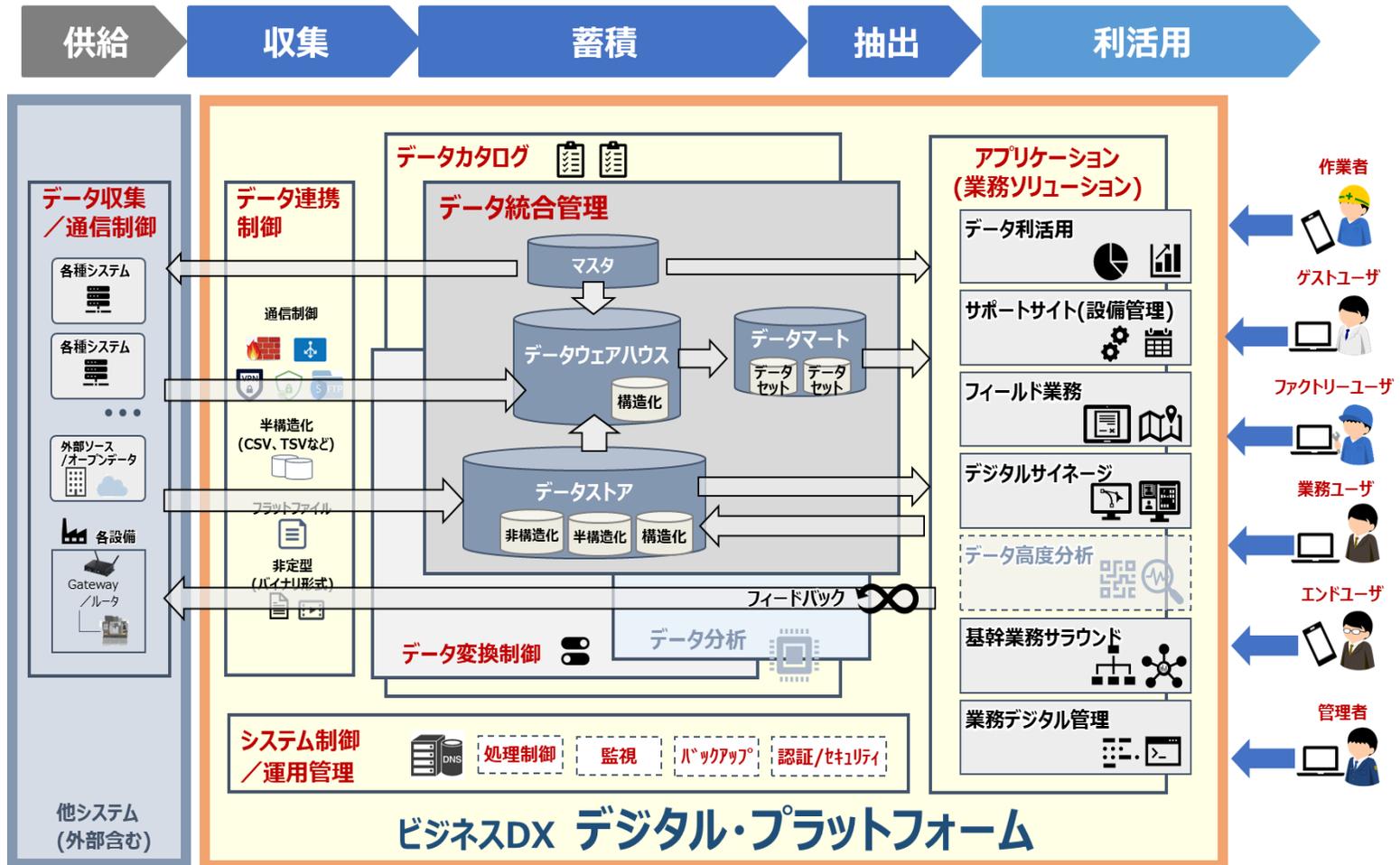
業務や処理で必要となる機能を導入事例よりパターン化(テンプレート化)したシステム構成をお客様の要件に合わせたシステム構成をスピーディーに選択・構築(地に足のついた、最適なシステムデザインを実施)

フレーム1

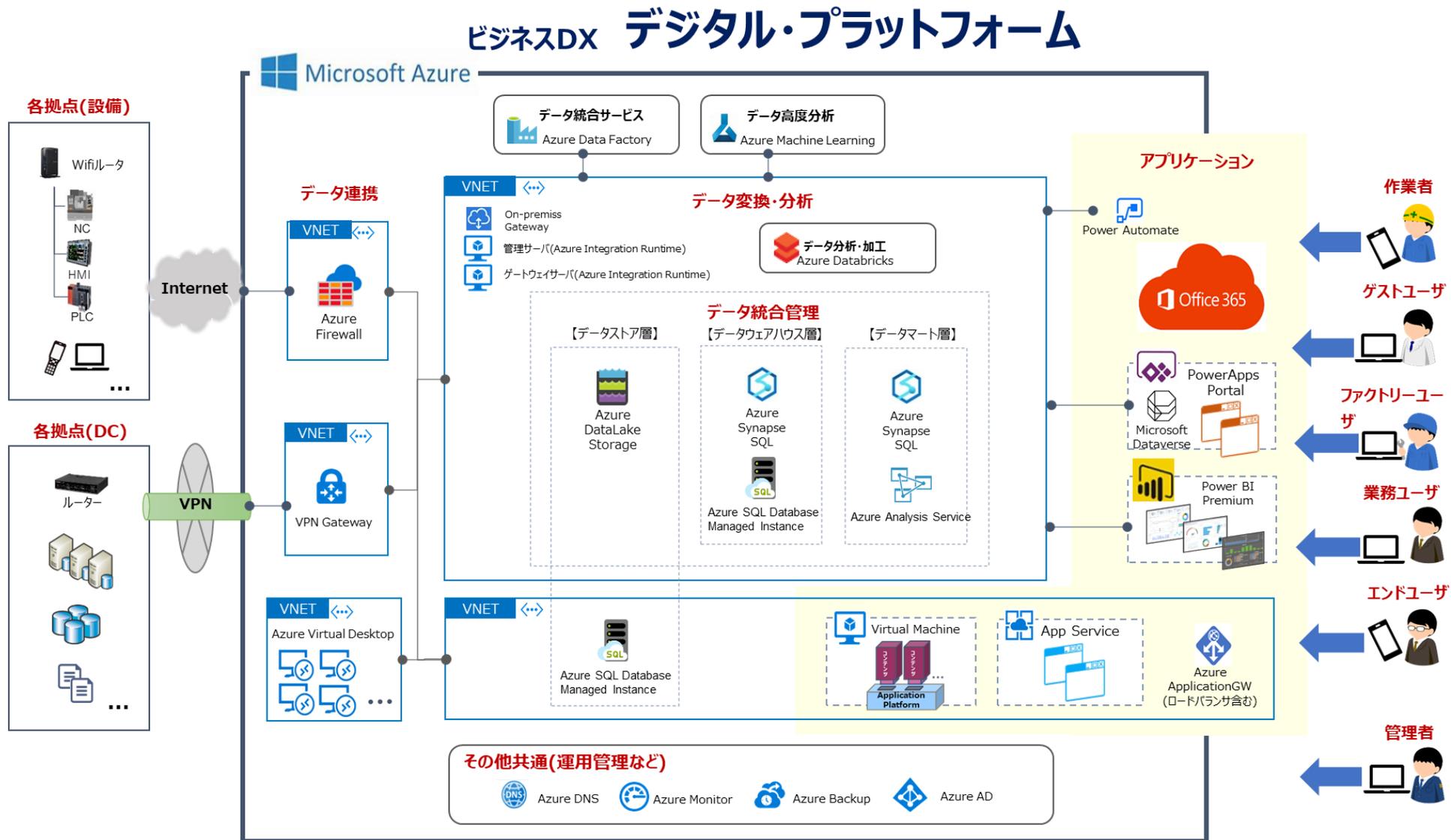
クラウドで提供されるサービスを利用することで、システムの信頼性・拡張性を確保
また、DXに対応するための、最新技術をスピーディーに活用可能

ビジネスDXソリューション構築方法

業務や処理で必要となる機能をパターン化（フレーム化）
要件に合わせ、必要機能を選択し最適なシステムを構成



ビジネスDX デジタル・プラットフォーム 論理構成



ご参考

(ビジネスDXプロジェクトの進め方)

ビジネスDXプロジェクトの進め方について

お客様の目的や狙いを理解し、弊社の経験・ノウハウより、
お客様の要件にあった最適なシステムの導入方針、また、**お客様と一体**
となった**最適なプロジェクト推進方法**をご提案致します。



※ 記載の内容は、あくまで1例です。
プロジェクト実施前に認識合わせの上、お客様にあった方法で実施致します。

ビジネスDXプロジェクト推進について（案）

ビジネスDXプロジェクトは、以下のフェーズに分割し、各フェーズで確実な仕様整合を実施し、計画通りのプロジェクト運営を実施します。



フェーズ	フェーズ概要	実施内容（例）	備考
フィッティング	仕様は把握と実施方針の整理	<ul style="list-style-type: none"> ▶ 業務プロセス、機能一覧を定義 ▶ システム標準機能、カスタマイズ内容を整理 ▶ トレーニングなど実施方針整理 	
	システムの標準モデルをベースに業務を適合	<ul style="list-style-type: none"> ▶ システムの標準モデルをベースに、機能要件と実装レベルを整合（適用内容を確定、不足機能の対応内容の確定、全体最適業務プロセスの確立と業務間整合） ▶ データ連携インタフェース定義 ▶ 各種準備タスクを実施 	
機能実装	システム導入/実装	<ul style="list-style-type: none"> ▶ システム等の設計/開発 ▶ 機能間の結合テスト実施 ▶ 運用項目の整理/運用機能設定 	
運用テスト	各種テストの実施と本番リリースの準備	<ul style="list-style-type: none"> ▶ テスト計画、ユーザの業務トレーニング、移行(マスタ、トラン)データ準備 ▶ テストを段階的に進め、業務、システム、運用の検証を実施 	
	特定の範囲(特定の関係者)で実運用実施	<ul style="list-style-type: none"> ▶ 運用保守プロセスの試行実施 	
運用保守	業務・システムの運用	<ul style="list-style-type: none"> ▶ 各種インシデントへの運用安定化に向けた対応実施 ▶ 安定運用に向けた運用モニタリング ▶ 運用保守プロセスの立上実施 	



各フェーズの位置付けと実施内容について（案）

フィッティングフェーズ

機能実装フェーズ

運用テストフェーズ

保守運用フェーズ

各フェーズと主な実施内容

業務プロセスと機能整理

- 業務プロセスとシステムでの必要機能一覧を整理
- システム要件における標準機能、カスタマイズ内容を整理
- フィジビリティ確認
- 課題整理

サンプルを利用した機能要件・実装方針定義

- クラウド標準のサンプルアプリにて、機能要件と実装レベル(デザインレベル)を検討
- 運用で必要となる機能の検討
- データ連携インタフェース定義

システム機能実装

- アプリケーションの実装
- 運用機能の実装
- 運用、移行実施方法整理
- お客様キーマン操作説明

運用テスト実施

- 運用テスト実施
- 運用に合わせた機能（画面）メンテナンス実施

プレ運用実施

- 特定の機器など実環境から先行的にトライアルでの運用確認を実施
- 機能メンテナンス実施

運用実施

- 運用状況による依頼対応、改善検討／実施
- 各種メンテナンス
- 対応履歴、課題管理（ナレッジ化）

クラウドインフラ設計

- フィッティング実施環境準備
- システム実装に向けたクラウドインフラ設計

クラウドインフラ構築

- クラウドインフラ環境の構築
- インフラレベルでの通信、ネットワーク確認

運用テスト準備

- 運用設計（運用項目、運用手順等）※お客様の既存の運用にADDを想定
- 運用テスト計画
- 運用テストデータ整備

リリース準備

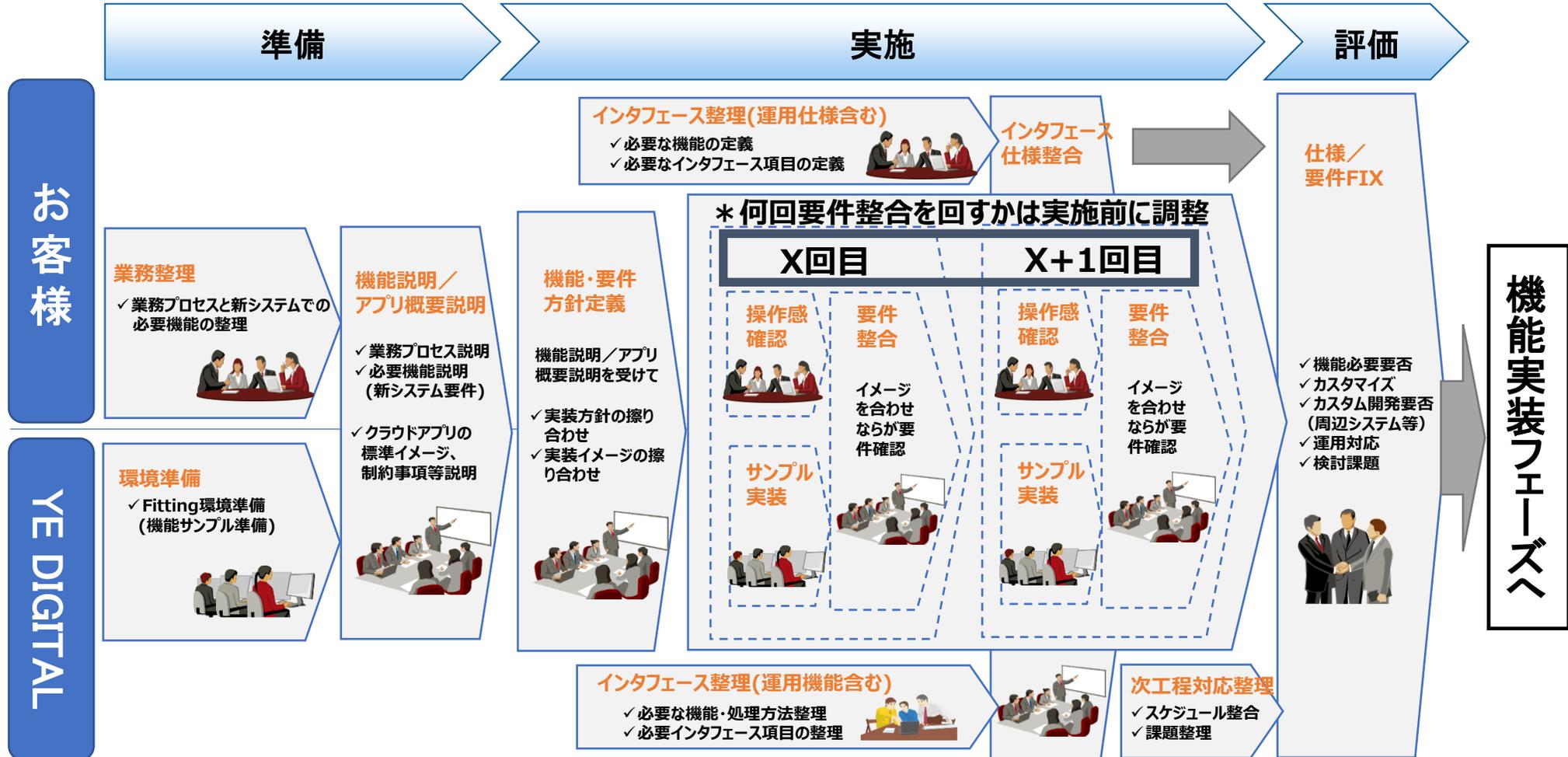
- 展開に必要なドキュメント等準備（関係者への通知含む）
- 本番運用に初期データ整備
- 運用体制整備

保守実施

- 安定運用に向けた運用モニタリング
- 運用状況報告、及び、運用状況による各種ステアリング

フィッティングフェーズの実施方法（案）

フィッティングフェーズでは、**標準機能により実装したサンプル**を利用しながら、仕様／要件をスピーディーに整合します。以下の流れをベースに推進を実施します。



お客様

YE DIGITAL



※記載している会社名・製品名は、各社の商標または登録商標です。
※本掲載内容は、予告なく変更することがあります。